

CLUSTERPRO

MC RootDiskMonitor 2.1 for Linux

リリースメモ

© 2016(Mar) NEC Corporation

- ☐ ライセンス
- ☐ パッケージのインストール
- ☐ セットアップ
- ☐ マニュアル

はしがき

本書は、CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.1 for Linux（以後 RootDiskMonitor と記載します）の動作に必要な手順について説明します。

（1）商標および登録商標

- ✓ Red Hat は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の登録商標または商標です。
- ✓ Oracle は、Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における、商標または登録商標です。
- ✓ Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における、登録商標または商標です。
- ✓ EMC、Symmetrix DMX、VMAX、CLARiX、VNX、XtremIO は EMC Corporation の商標または登録商標です。
- ✓ Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ✓ その他、本書に登場する会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
- ✓ なお、本書では®、TM マークを明記していません。

目次

1. ライセンス	1
1.1. コードワードの取得	1
1.2. コードワードの登録	1
2. パッケージのインストール	2
2.1. 動作環境	2
2.2. 使用パーティションおよび必要容量	2
2.3. 提供媒体	3
2.4. 依存パッケージ	3
2.5. ソフトウェアパッケージのインストール	4
2.6. ソフトウェアパッケージのアンインストール	5
2.7. ソフトウェアパッケージのリビジョンアップ	6
3. セットアップ	7
4. マニュアル	7

1. ライセンス

1.1. コードワードの取得

本製品を導入する前に、あらかじめロック解除のためのコードワードを取得する必要があります。

製品添付の「コードワードについて」の手順にしたがって、コードワードを取得してください。

1.2. コードワードの登録

「コードワードについて」の「ライセンスツールのインストール」及び製品添付の「コードワード登録手順」の手順にしたがって本製品をインストールするマシンに、取得したコードワードを登録してください。

[手順の概要]

1. ライセンスツールのインストール

ライセンスツールをインストールします。

既にインストール済みの場合は本手順は不要です。

ライセンスツールは製品媒体の /Linux/licensetool ディレクトリ配下にあります。

2. コードワード登録ファイルの作成

コードワード登録ファイルを作成します。

既にファイルを作成済みの場合は本手順は不要です。

3. コードワードの登録

コードワード登録ファイルに取得したコードワードを登録します。

記述ミスなどが無い様に正確に記述してください。

4. コードワードの確認

コードワード登録ファイルに記載したコードワードが正しく登録されていることを確認します。

(例) `# /opt/HA/license/bin/halkchecklicense -v UL4441-402`

license OK

「license OK」と表示されることを確認してください。

2. パッケージのインストール

2.1. 動作環境

RootDiskMonitor は以下の OS での動作を保証しています。

事前に OS のバージョンをお確かめのうえ、インストール作業を行ってください。

- Red Hat Enterprise Linux 5. 0～5.11
- Red Hat Enterprise Linux 6. 0～6.7
- Red Hat Enterprise Linux 7. 0～7.1 ※
- Oracle Linux 6. 2～6.7
- Oracle Linux 7.0～7.1

※KVM を利用する場合は、ホスト OS が Red Hat Enterprise Linux 7.1 の場合のみサポートします。

また、ゲスト OS は、Red Hat Enterprise Linux 5.11、6.7、7.1 をサポートします。

HW 構成の条件は以下のとおりです。

- X86 および x86_64 搭載サーバ
SCSI インタフェース接続の内蔵、増設ディスク装置
FC 接続のディスクアレイ装置
 - NEC 社製 iStorage 全シリーズ(ただし、E1 シリーズは除きます)
 - EMC 社製 CLARiX シリーズ
 - EMC 社製 VNX シリーズ
 - EMC 社製 Symmetrix DMX シリーズ、VMAX シリーズ、XtremIO

2.2. 使用パーティションおよび必要容量

RootDiskMonitor で使用するパーティションと必要なディスク容量、メモリ容量は以下のとおりです。ご使用の前にお確かめください。

- ディスク容量

使用パーティション	必要容量
/opt	約 1.0M バイト

※ RootDiskMonitor が出力するメモリダンプファイルおよびログファイルの容量を含まないディスク容量となります。

- メモリ容量 :5MB 以上

2.3. 提供媒体

RootDiskMonitor は以下の媒体に添付されます。

- CD-R (MDL144150101-1)

2.4. 依存パッケージ

- sg3_utils

RootDiskMonitor は内部で以下のパッケージを利用します。

sg3_utils Utils for Linux's SCSI generic driver devices + raw devices

本パッケージがインストールされていない場合、事前にインストールしてください。

以下のコマンドでインストールの有無を確認できます。

```
# rpm -qa sg3_utils
sg3_utils-w.x.y.z
```

※ インストールされていない場合、何も出力されません

注意:w, x, y, z には sg3_utils パッケージのバージョン番号が入ります。

本パッケージは標準で OS インストール媒体中に含まれます。

- glibc (32bit 互換ライブラリ)

Red Hat Enterprise Linux 7.x と 6.x (64bit) または Oracle Linux 7.x と 6.x (64bit) のシステムに本製品をインストールする場合、事前に互換ライブラリ(glibc-x.y.z.i686.rpm)がインストールされている必要があります。

互換ライブラリがインストールされていない場合、事前にインストールしてください。

以下のコマンドでインストールの有無を確認できます。

```
# rpm -qa glibc
:
glibc-x.y.z.i686
```

※ インストールされていない場合、"glibc-x.y.z.i686" の行が出力されません。

注意:x, y には互換ライブラリのバージョン番号が入ります。

本パッケージは標準で OS インストール媒体中に含まれます。

2.5. ソフトウェアパッケージのインストール

1. RootDiskMonitor の含まれる CD-R 媒体を CD-ROM(DVD)装置に挿入してください。
2. mount(8)コマンドにより、CD-R 媒体を mount します。
(/dev/cdrom は CD-ROM(DVD)装置のデバイスファイル名)

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

3. rpm(8)コマンドにより RootDiskMonitor のパッケージをインストールします。

```
# rpm -ivh /mnt/cdrom/Linux/rpm/clusterpro-mc-rdm-w.x.y-z.i386.rpm
```

注意: Red Hat Enterprise Linux 7.x と 6.x (64bit) または
Oracle Linux 7.x と 6.x (64bit) のシステムに本製品をインストールする場合、
事前に互換ライブラリ(glibc-x.y.z.i686.rpm)がインストールされている
必要があります。

4. rpm(8)コマンドにより、RootDiskMonitor が正しくインストールされた
ことを確認します。

```
# rpm -qa | grep clusterpro-mc-rdm  
clusterpro-mc-rdm-w.x.y-z
```

注意: w, x, y, z にはバージョン番号が入ります。
機能強化があるとバージョン番号が更新されます。

5. マウントした媒体を umount(8)コマンドによりアンマウントします。

```
# umount /mnt/cdrom
```

6. 媒体を CD-ROM(DVD)装置から取り出します。

以上で RootDiskMonitor のインストールは終了です。

2.6. ソフトウェアパッケージのアンインストール

1. デーモンプロセスを終了させます。

【Red Hat Enterprise Linux 7.x】

【Oracle Linux 7.x】

```
# systemctl stop rdmd
```

【Red Hat Enterprise Linux 6.x と 5.x】

【Oracle Linux 6.x】

```
# /etc/init.d/rdmd stop
```

2. rpm(8)コマンドを使用してアンインストールを行います。

```
# rpm -e clusterpro-mc-rdm-w.x.y-z
```

(注)アンインストール時にクラスタを停止する必要はありません。

アンインストール時に /opt/HA ディレクトリは削除されません。

不要な場合、手動で削除してください。

2.7. ソフトウェアパッケージのリビジョンアップ

RootDiskMonitor を本リリースにリビジョンアップする場合は以下の手順で行います。

1. 下記の設定ファイルのバックアップを取得します。

```
# cp -p /opt/HA/RDM/conf/rdm.config /tmp
```

2. アンインストール手順にしたがい、旧リリースの RootDiskMonitor をアンインストールします。
3. インストール手順にしたがい、本リリースの RootDiskMonitor をインストールします。
4. バックアップした設定ファイルを元の場所に戻してください。

```
# cp -p /tmp/rdm.config /opt/HA/RDM/conf
```

5. デーモンプロセスを起動してください。

【Red Hat Enterprise Linux 7.x】

【Oracle Linux 7.x】

```
# systemctl start rdmd
```

【Red Hat Enterprise Linux 6.x と 5.x】

【Oracle Linux 6.x】

```
# /etc/init.d/rdmd start
```

3. セットアップ

RootDiskMonitor を使用するためには、設定ファイル・セットアップ作業を行う必要があります。

これらの手順については、媒体添付の『CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.1 for Linux ユーザーズガイド』をご覧ください。

4. マニュアル

RootDiskMonitor のマニュアルは PDF 形式で CD-R 媒体に含まれています。

マニュアル名	ファイル名
CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.1 for Linux ユーザーズガイド	/Linux/manual/Linux_RDM_users.pdf
CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.1 for Linux 導入ガイド	/Linux/manual/rdm_GUIDE.pdf
CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.1 for Linux syslog メッセージ一覧	/Linux/manual/Linux_RDM_syslog.pdf
CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.1 for Linux パラメータシート	/Linux/manual/Linux_RDM_parameter.pdf
CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.1 for Linux FAQ 集	/Linux/manual/Linux_RDM_faq.pdf
CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.1 for Linux はじめての RootDiskMonitor	/Linux/manual/Linux_RDM_tutorial.pdf
CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.1 for Linux 仮想環境(ゲスト OS)での設定手順	/Linux/manual/RDM_guestOS_setup.pdf

CD-R 媒体は Microsoft Windows からアクセスできます。PDF ファイルを参照できるソフトウェアを使ってマニュアルをご覧ください。

CLUSTERPRO
MC RootDiskMonitor 2.1 for Linux
リリースメモ

2016 年 3 月 第 2 版
日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目 7 番地 1 号
TEL (03) 3454-1111 (代表)



© NEC Corporation 2016

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

保護用紙